

## A-13 内科(必修)-心臓内科プログラム

### 概要

当院の内科(必修)研修6ヵ月では、一般内科4ヶ月、心臓内科1ヵ月、神経内科1ヶ月に分けてローテーションを行いながら研修する。このプログラム(A-13)は心臓内科で1ヵ月の内科(必修)研修を行うためのプログラムである。

研修指導責任者 那須 博司

### 目標

#### 中央病院 GIO

将来遭遇しうるいかなる状況においても思いやりを持ちながら良質な全人的医療を行うために、県の基幹病院での研修を通じ、将来の専攻する診療科にかかわらず臨床に必要な基本的診療能力(態度、技能、知識)を修得する。

#### 一般目標(内科(必修)研修 GIO)

将来遭遇しうるいかなる状況においても思いやりを持ちながら良質な全人的医療を行うために、主として循環器疾患の知識・診断・技術を習得することを通して、将来の専攻する診療科にかかわらずプライマリケアの臨床に必要な基本的診療能力(態度、技能、知識)を修得する。

一般目標(内科(必修)-心臓内科研修 GIO)は上記の内科(必修)研修 GIOに同じ

#### 行動目標(内科(必修)-心臓内科研修 SBOs)

下記のEPOCで定める目標とする。

#### EPOC で定める目標

1. 心臓内科で必ず修得しなければならない EPOC 項目(マトリックス表で )

A-3-5 心電図(12誘導) 負荷心電図

A-3-14 超音波検査

A-4-19 除細動

#### B - 1 経験すべき症状、病態、疾患

B-1-5 浮腫

B-1-21 呼吸困難

B-1-19 胸痛

B-2-6 急性心不全

B-1-20 動悸

B-2-7 急性冠症候群

#### B - 2 経験が求められる症状・病態

B-3-5 循環器系

(8) 高血圧症

(1) 心不全

(3) 心筋症

(4) 不正脈

(5) 弁膜症

(6) 動脈疾患

(7) 静脈・リンパ管疾患

## B-3-6 呼吸器系

## (4) 肺循環障害

2. 心臓内科で修得するのが望ましいEPOC項目(マトリクス表で)

A-1 医療面接	A-4-11 ドレーン・チューブ
A-2-1 全身観察	A-5-1 療養生活の説明
A-2-3 胸部の診察(乳房の診察を含む)	A-5-2 薬物療法
A-3-1 尿検査	A-5-3 輸液
A-3-3 血算・白血球分画	A-6-1 診療録作成
A-3-4 血液型判定・交差適合試験	A-6-2 処方箋、指示箋
A-3-6 動脈血ガス分析	A-6-3 診断書、死亡診断書
A-3-7 血液生化学検査	A-6-5 紹介状、返信
A-3-8 血液免疫血清学	A-7-1 診療計画作成
A-3-9 細菌学的検査・薬剤感受性検査	A-7-2 診療ガイドライン
A-3-10 肺機能検査	A-7-3 入退院適応判断
A-3-15 単純X線	A-7-4 QOL 考慮

B - 1 経験すべき症状、病態、疾患

- B-1-1 全身倦怠感
- B-1-12 失神
- B-1-34 尿量異常
- B-2-1 心肺停止
- B-2-3 意識障害

B - 2 経験が求められる症状・病態

- B-3-10 内分泌系
- (5) 高脂血症

C 特定の医療現場の経験

- C-1 救急医療(救急医療の現場を経験すること)
  - (1) バイタルサインの把握ができる
  - (2) 重症度、緊急度の把握ができる
  - (3) ショックの診断・治療ができる
  - (5) 高頻度救急疾患の初期治療ができる
  - (6) 専門医へのコンサルテーションができる
- C-6 緩和ケア、終末期医療(臨終の立ち会いを経験すること)
  - (1) 心理社会的側面への配慮ができる
  - (2) 治療の初期段階から基本的な緩和ケアができる
  - (3) 諸問題への配慮ができる
  - (4) 死生観・宗教観への配慮ができる

3. 全ての科で目標とする項目(マトリクス表では)

## I. 医療人として必要な基本姿勢・態度

- (1) 患者-意思関係、(2) チーム医療、(3) 問題対応能力、
- (4) 安全管理、(5) 症例呈示、(6) 医療の社会性

## 方略(LS)

指導医数 臨床研修指導医2名、学会専門医4名

研修期間は、1ヵ月

場所は外来、病棟、ICU、心臓カテーテル検査室、心臓超音波検査室

OJT(On the Job Training)が主体

担当の指導医・上級医とマンツーマンで研修する。

カンファレンス

心カテ症例検討会(心カテ症例の治療方針の決定) 週3回

週間予定(月～金)

## 評価(EV)

### 形成的評価(フィードバック)

知識(想起、解釈、問題解決)については随時おこなう

態度・習慣、技能についても随時行う。

技能についてはチェックリスト、評価尺度の使用を推奨

態度・習慣については観察記録の使用を推奨

**総括的評価** EPOC担当指導医の研修担当期間が終了する時点で、EPOCの評価入力を行う。

また mini-Peer Assessment Tool (mini-PAT) に評価を記載し、プログラム責任者に報告する。